



by HARMAN®

Project EVEREST
DD65000 / DD67000

取扱説明書
(抜粋)

この度は **Project EVEREST** スピーカーシステムをご購入頂きまして誠にありがとうございます。

本製品をより良く理解していただき、正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を最後までお読みください。



ハーマンインターナショナル 株式会社

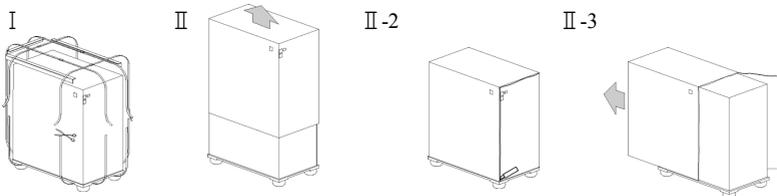
Project EVEREST システムの開梱方法

EVEREST システムは損傷を受けないように万全の梱包を施してあります。オリジナルの梱包材は後の輸送時のことを考えて、保管しておかれることをお勧めします。

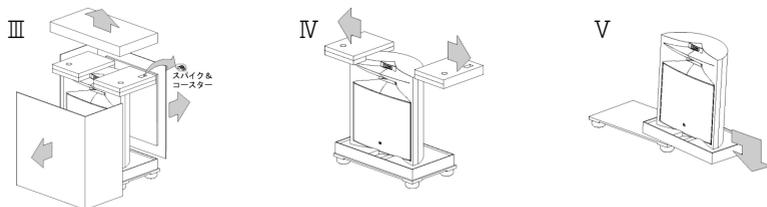
スピーカーが大きく重いため、開梱作業は必ず2名以上で、慎重に行ってください。スピーカー本体底部には球状のステンレス製ラウンドフットが取り付けられています。床に傷をつける恐れがありますので、開梱はカーペット、ダンボールなどを敷いた上で行ってください。

開梱は下記の手順で行ってください。(本体は保護用の不織布で包まれています。図では省略しています。)

- I. 箱を縛っているストラップをはさみ、カッターなどを使用して切ってください。(切れたストラップが跳ね上がり、顔や手に当たらないよう十分ご注意ください。また、ストラップを切った状態で製品の移動は行わないでください。)
- II. 上蓋をゆっくり持ち上げ、外します。
上部に十分な空間がなく、蓋を上に取り抜くことが出来ない場合は、上蓋の側面と上面をカッターなどで切り(図II-2)、側面を開いて蓋を横に引き抜いてください(図II-3)。

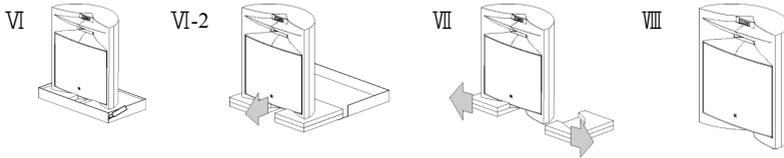


- III. 本体周りのダンボール、パッキンを取り除きます。その際、上部パッキンの上に付属品が収められていますので、忘れずに取り出しておいてください。
- IV. 上部パッキンを取り去ります。
- V. 底板の上を滑らせて、スピーカーをダンボールの底箱ごと、床の上に降ろします。その際、本体が転倒しないようしっかりとガードしてください。



Project EVEREST DD65000/67000

- VI. ダンボール底箱の左右の辺を留めているテープをカッターなどで切り(図VI)、箱の前面を開いてスピーカーをパッキンごと前に滑らせて段ボールの底箱から取り出します(図VI-2)。
- VII. スピーカーの左右を片側ずつ持ち上げ、底部パッキンを左右に引き抜いて外しスピーカーを床の上に降ろします。
- VIII. スピーカー本体周りの保護用の不織布を取り除いてください。



製品は、ラウンドチップのスパイクが取り付けられた状態で出荷されています。ピンポイントスパイクをご使用の際は、ラウンドチップを取り外し、ピンポイントスパイクに付け替えてください。その際、チップが固く、取り外し難い場合は、18mm サイズのスパナレンチまたは自在レンチを使用して取り外してください。

スパイクにより床面に傷が付くのを避けるために、スパイク受けが付属していますので、必要に応じてご使用下さい。

グリルの取り外し

EVEREST システムはグリルが取り付けられた状態で出荷されています。グリルを取り外す際には、以下の要領で行ってください。

Step 1: グリル下部を両手で持ち、上に持ち上げます。

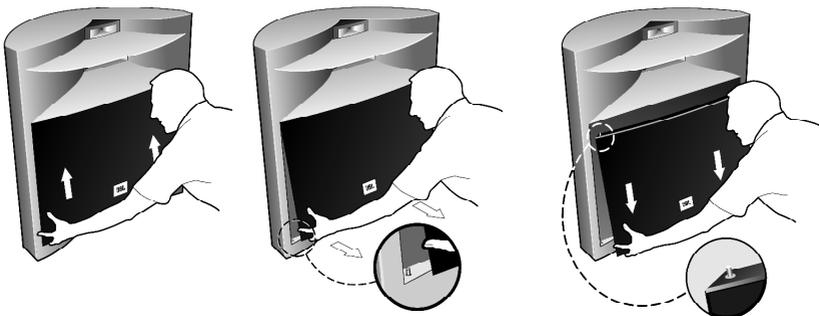
Step 2: グリルを手前に引き、本体下部のピンからグリルを抜きます。

Step 3: グリルを下に下げ、本体からグリルを抜き取ってください。

Grille Removal - Step 1

Grille Removal - Step 2

Grille Removal - Step 3



再度グリルを取り付ける際は、上記の逆の手順で取り付けを行います。

設置とセットアップ

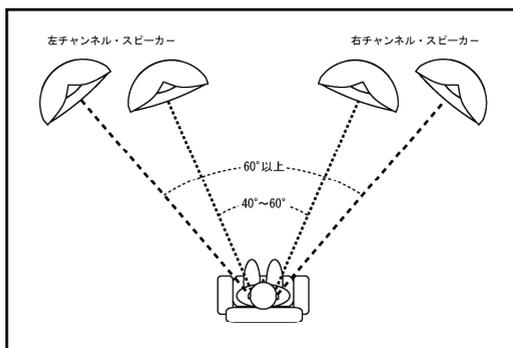
Project EVERST スピーカーシステムは、従来のシステムより部屋の音響特性の影響を受けにくい設計がなされています。しかし、全体的な左右対称性、壁・天井・コーナーなどへの距離によって特性が影響されます。

リスニングルームには反射面(壁・窓)と、吸音面(カーテン・カーペット・クッションなど)の両方を組み合わせることが理想的です。床と天井との距離が近い場合は、どちらか一方の表面を吸音性にすることが望まれます。本機では、水平 100° 垂直 60° と定義されているホーンのサービスエリアに合った最適なリスニング空間に適応させることが最も重要です。

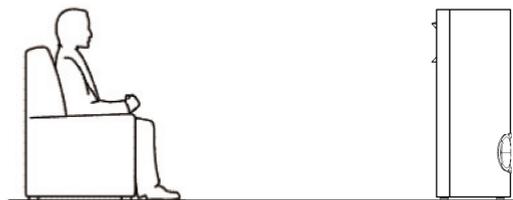
ステレオ効果を最良にするために、スピーカーはリスニング位置の左右前方に対称に配置してください。

- 左右のスピーカー間の距離は、左右のスピーカーとリスニング位置との位置関係から生まれる角度で決まります(下図参照)。

左右のスピーカーの間隔が広い程、広がり感のある音場が得られますが、ボーカルなど中央定位の音像が弱まります。間隔が広過ぎる場合(約 60° 以上)は、スピーカーをやや内側、リスナー方向に向けることで、しっかりしたセンター定位を得ることができます。



- スピーカーの音像の中心は、高音用ホーンユニットの高さ(約 90cm)にあります。このホーン部の高さがリスニング位置における耳の高さに近い位置になるよう設置するのが基本となります。



- 設置場所の周りの環境は、低域の音質に影響します。スピーカーを背面や左右の壁の近くに設置すると、低音が増強され豊かになりますが、近づけ過ぎると切れの無い鈍った低音になる場合があります。反対に、壁から離して設置すると低音の量感は減少しますが、すっきりした切れのある低音になります。本機に採用された低域アライメントは、スピーカー間隔を狭めたり、コーナーの近くに設置しても低音が脹らみすぎることはありません。コーナー

Project EVEREST DD65000/67000

近くに設置が可能になると、小さな部屋でも最適な性能が発揮できるということになります。さまざまな音楽ソースを演奏しながら、最適なポイントを見つけてください。

- 本機は壁にかなり近づけて使用することができますが、それぞれのスピーカーの背面と壁との間には、スピーカーケーブルの接続ができる十分な余裕を持たせて下さい(約 45cm)。

Project EVEREST は、設置場所に合わせてスピーカー本体を右用および左用に設定する必要があります。設置場所が決まりましたら、次章「コントロールパネルの操作(System Orientation)」の項を参照し、設定を行ってください。



注意

Project EVEREST は高密度素材を選んで構成された重量のあるシステムで、比較的小さな設置面にその重量が集中しています。スピーカーを設置しシステムアップする前に床がしっかりとした状態であることを確認して下さい(床について参照)。また、一度スピーカーを設置すると、システムの重量は 140kg 以上になり、容易に動かすことができないことを考慮に入れておいて下さい。

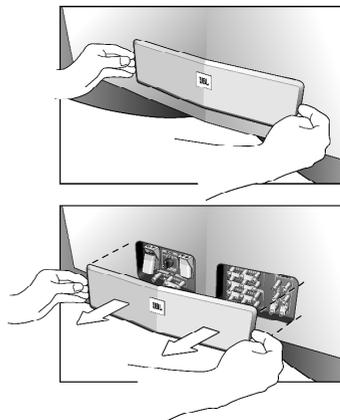
床について:

Project EVEREST をセットアップする床は 140kg 以上の重さに耐えられるものでなければなりません。ステンレススパイクのカップリング効果のために、床にはウッドやリノリウムのような平らで堅い材質が望まれます。しかし、その並外れた重量とスピーカーのカップリングシステムの設計により、カーペットなどどんな表面でも素晴らしい性能が得られるはずです。

スピーカーの重さによりできるウッドやリノリウムへの床のへこみを防ぐには、一緒に梱包されているステンレス製スパイク受けを必要に応じて利用して下さい。なお、集中的な重量負担により床面が破損する場合があるので、本機を直接陶製のタイルの床には設置しないで下さい。

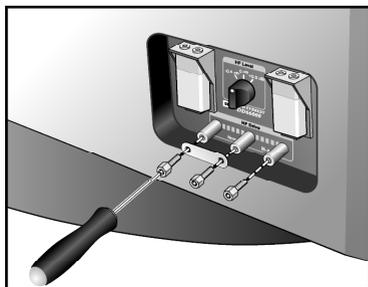
Project EVERST コントロールパネルの操作

本機のフロントバッフル下部のカバーの中に2つのコントロールパネルを備えています。コントロールパネル内のショータィング・バーまたはスイッチの操作により、システムのオリエンテーション切り替え、バイアンプ駆動切り替え、ウーファーレベル調整および高域レベル調整が可能です。コントロールパネル内には、コンデンサー・バイアスに使用する 9V バッテリーのホルダーも装備しています。右図を参考にコントロールパネル・カバーを外し、操作を行ってください。

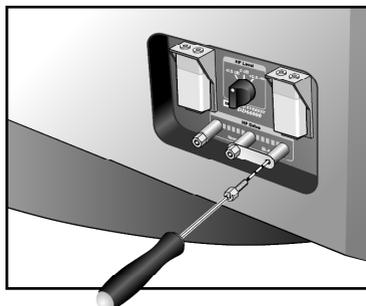


ショータィング・バーによる設定変更を行う際には、付属の六角ドライバーを用いてバーを固定しているネジを取り外し、希望する側のターミナルにバーを移動し、ネジを締め直してバーをターミナルに固定してください。

Shorting Bar Set-up - Step 1



Shorting Bar Set-up - Step 2



注意

ターミナルのネジの緩みは接触不良などトラブルの原因となりますので、しっかりと固定してください。ただし、締め付けが強すぎるとターミナルを破損する恐れがありますので、必ず付属の六角ドライバーを使用し、適度なトルクで締め付けてください。

本機は、これらの機能の切り替えにより、以下の設定と調整が可能となっています。

System Orientation :

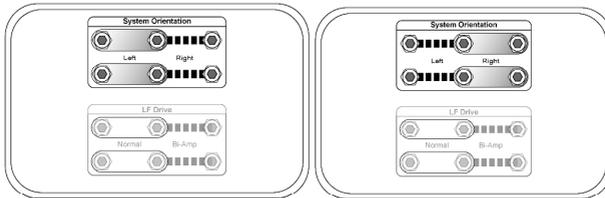
2個の低域ドライバーは異なる周波数帯域で作動します。正確な音像定位を得るためには広帯域なメインウーファー (LF2) がシステムペアの内側になる必要があります。システムオリエンテーション・バーを正しく設定することで、システム1台ずつをそれぞれ「左」チャンネルまたは「右」チャンネルシステムとして割り当てることができます。2つのバーは同時に動か

Project EVEREST DD65000/67000

す必要があります。バーの設定が互い違いになると、正しいサウンドを再生できなくなります。バーはどちらのウーファーが低域信号のみを受け持ち、どちらがミッドレンジ信号までを受け持つかを選択します。左スピーカーとして設置した1台のシステムを「Left」にセットします。右スピーカーとして設置したもう1台のシステムは「Right」にセットします。

Left(左)チャンネル用設定

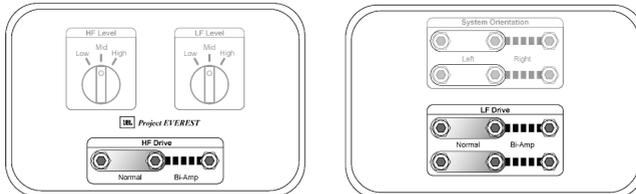
Right(右)チャンネル用設定



HF Drive / LF Drive :

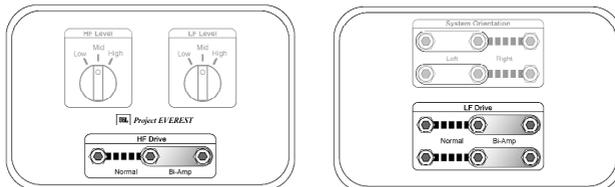
1組のアンプを使用したノーマル・ドライブと、2組のパワーアンプを用いたバイアンプ・ドライブとの切り替えを行います。バイアンプ・ドライブを行う場合以外は、バーを動かさないようにしてください。

ノーマル・ドライブ



ショーティングバーでバイアンプポジションを選択すると、ワイドレンジウーファーと高域ドライバーのクロスオーバー機能をバイパス出来ます。この時、低域ウーファーと超高域ドライバーには変更はありません。

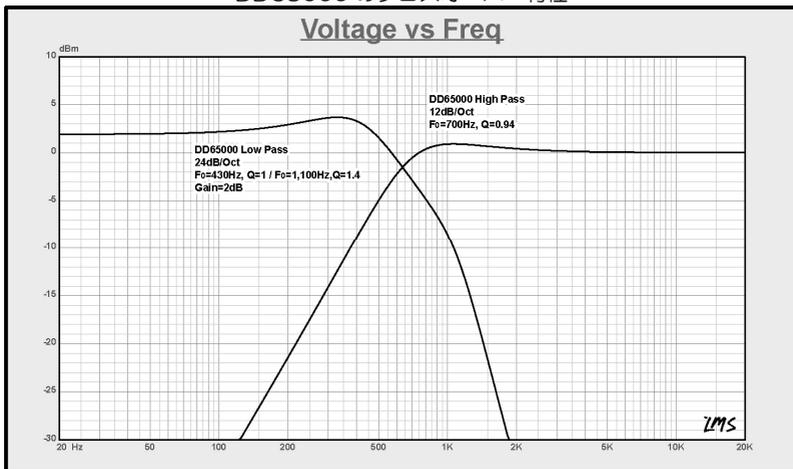
バイアンプ・ドライブ



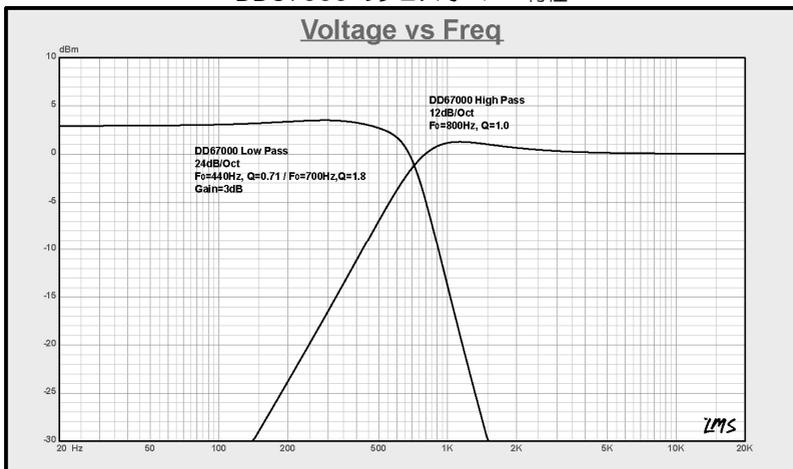
この機能を用いるにはこのシステム用に外部ディバイディング・ネットワーク(チャンネル・デバイダー)と2組のパワーアンプが必要になります。内蔵されている476HFドライバー用アッテネーションとイコライゼーションはそのまま使用可能です。高域レベル調整も低域および高域用バッテリーバイパスも機能します。3セットのバー(LF2用2箇所、HF用1箇所)はすべて同一ポジションに動かします。

下図は外部ディバイディング・ネットワークと2台のアンプを使用してシステムを正しくバイアンプするのに必要な低域及び高域ボルテージドライブ特性を示したものです。ドライブカーブは内蔵のパッシブネットワークを用いてアコースティックなローパスとハイパス特性の結果から導き出されたものです。これらの特性を再現することでパッシブな **EVEREST** 同様の周波数特性と指向性パターンが得られます。ローパス部は2つのカスケード接続されたセカンドオーダー・フィルターセクションから成り、ハイパス部は1つのハイパスセクションから成ります。高品質なアナログ・ディバイディング・ネットワークや最新のデジタル・クロスオーバーであれば、通常これらの結果を得ることが可能です。

DD65000 のクロスオーバー特性

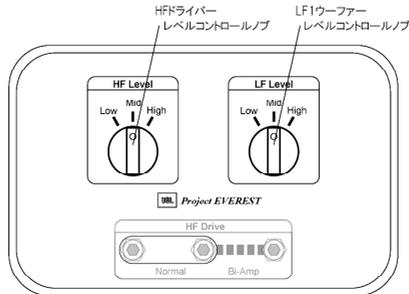


DD67000 のクロスオーバー特性



HF Level :

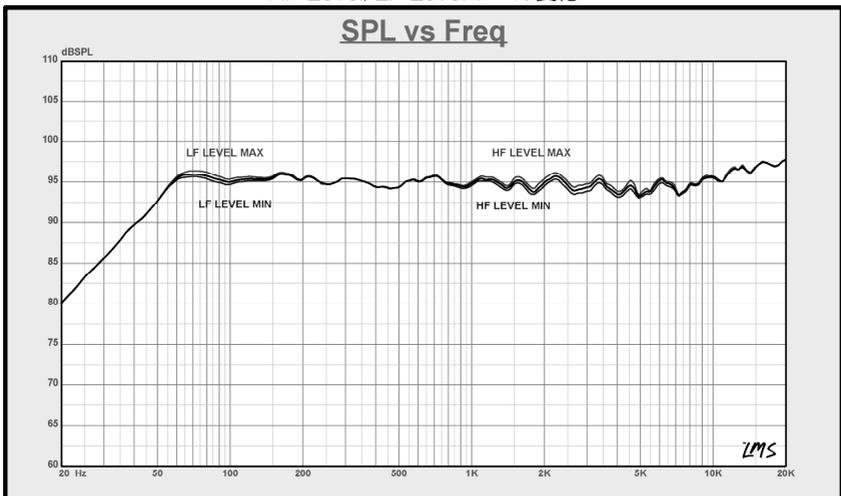
このスイッチはアッテネーション抵抗を微調整することで、中高音域 (HF) ユニットの再生レベルを 1,000Hz-8,000Hz の帯域で約 0.4dB 増減します。レベルを下げる事で中高音が落ち着いた音調になり、レベルを上げることで明るい音調になります。



LF Level :

150Hz までを再生する低域専用ウーファー (LF1) のレベルの微調整が可能です。Low または High ノブを切り替えることでウーファースの動作帯域内における周波数スペクトラムの一部でドライブレベルを約 0.4dB 増減させます。この調整の目的は部屋特性に合わせてシステムの低域特性をファインチューニングすることです。

HF Level/LF Level レベル変化



Project EVEREST の接続



注意

本機を接続、または接続を外す前に、全てのアンプのスイッチを切ってください。アンプが動作している間に接続を行う事は、スピーカーシステムを破損する可能性があり、保証を無効にします。アンプ、および他のコンポーネントの接続を行う際は、すべてのコンポーネントの電源を切ってから行ってください。

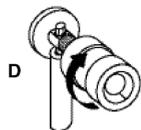
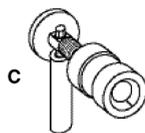
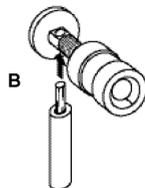
アンプと **Project EVEREST** スピーカーシステムとの接続は、エンクロージャーの後方下部にあるターミナルカップ内の端子で行います。左ターミナル（黒文字入り）はマイナス、右ターミナル（赤文字入り）はプラスです。良質のスピーカーケーブルを使用して、本機のスピーカー端子とアンプのスピーカーケーブルとを接続してください。その際、アンプ、スピーカーそれぞれのプラスとマイナス端子に適切に導線を接続してください。これは全てのコンポーネントを同位相で動作させるために重要です。スピーカーを逆位相で接続する事はスピーカーにダメージを与える事はありませんが、低域出力の減少及びステレオ効果の低減につながります。

スピーカーケーブルは幾つかの方法で端子に固定できます。最も簡単な接続は、ケーブル両側の皮膜をむいて露出させた裸のケーブルで直接接続する方法です(右図参照)。

この接続方法では、端子のノブを緩め、それぞれのスピーカーケーブルの露出した裸の端末を端子ポストの穴に差し込むか、周りに巻き付けます。ワイヤーが最大のエリアに渡り、ぴったりと確実に接続されるようにそれぞれの端子のノブを再び締めます。過大な力を加えたり、締めすぎてはいけません。結線のショートを防ぐ為、バイディングポスト表面に接触していない余分なワイヤーは取り除いてください。

本機の端子はスパード又はバナナタイプコネクタも使用できるよう設計されています。

本機に装備された 2 組の入力端子は、バイワイヤリング接続、バイアンプ接続に対応します。以下の説明に従いそれぞれに合った接続方法を行ってください。



I. 1組のスピーカーケーブルによるシングルワイヤー接続

付属のショートストラップを取り付けたまま、上下どちらかの端子に接続します。

II. 2組のスピーカーケーブルを使用したバイワイヤー接続

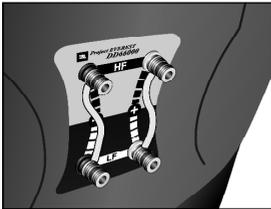
付属のショートストラップを取り外し、高域用ケーブルを上上の端子に、低域用ケーブルを下下の端子に、それぞれ接続します。

III. 2組のアンプとスピーカーケーブルを使用したバイアンプ接続

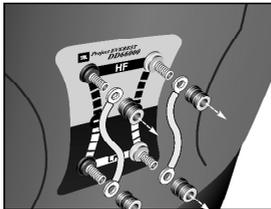
付属のショートストラップを取り外し、高域用アンプからのケーブルを上上の端子に、低域用アンプからのケーブルを下下の端子に、それぞれ接続します。

製品は、低域と高域ターミナル間にツイステッドペア・ショートストラップが取り付けられた状態で出荷されます。本機でバイワイヤー接続またはバイアンプ駆動を行う際には、接続を行う前に下記の図を参照し、それぞれのスピーカー端子からジャンパーを外し、ノブを再び締めてください。ショートストラップを取り付けたままバイワイヤー、バイアンプの接続を行うと、その効果が得られないばかりでなく、アンプを破損させる恐れがあります。

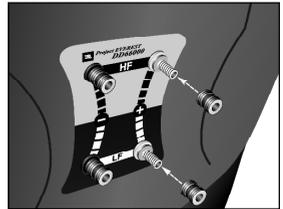
Strap Removal - Step 0



Strap Removal - Step 1



Strap Removal - Step 2



- ショートストラップを使用する際は、ストラップのスリーブと導線がそれぞれ確実に端子に締め付けられていることをご確認ください。
- 安全、確実に接続するため、ケーブル末端には Y 型端子またはバナナプラグの使用をお勧めします。

前述した通り、本機にはシングルワイヤー、バイワイヤー、バイアンプの3通りの接続方法が選べます。それぞれの方法はそれぞれの利点を持ちますが、**Project EVEREST** ラウドスピーカーシステムは全ての方法において素晴らしいパフォーマンスを発揮します。

最終チェックリスト：

- ・ 他のすべてのオーディオシステムの接続を行います
- ・ すべての接続を確認します。バイアンプ方式あるいはバイワイヤー方式の場合、ショートストラップを両方取り外したか確認します。
- ・ コントロールパネル内のシステム・オリエンテーション切り替え、HF/LF ドライブ切り替えが適切に選択されているか確認します。

これでシステムは試聴できる状態になりました。本機はセットアップされた直後から、十分に機能を発揮することができますが、始めの 1 週間から 10 日の間に音色がわずかに変わります。これは各ドライバユニットの動作が滑らかになり、パーツが馴染むからです。このプロセスはすべて正常で、どのようなトランスデューサーにも起こる現象です。この間も、使用するアンプの出力に制限はありません。

Project EVEREST の手入れとメンテナンス

Project EVEREST スピーカーシステムは、時折柔らかく乾いた糸くずのないコットンクロスで埃を拭き取るだけで他の手入れは必要ありません。ホーンも同じ柔らかい布で拭いて下さい。ラッカー仕上げの表面に傷を付けないように十分注意して取り扱って下さい。指紋や汚れを落とす場合は、アルコールやアンモニアを含まない中性洗剤を水で薄め、少量含ませた布でやさしく表面を拭いて下さい。

エンクロージャーを拭く際に絶対に研磨剤入りのクレンザーや化学薬品は使用しないで下さい。もしエンクロージャーに目立つ傷や損傷を与えてしまった場合は、技術のある家具修理業者等にご相談下さい。

すべての接続ケーブルは点検・手入れし、もしくは取り替えを定期的に行ってください。メンテナンスの回数はケーブルに使用されている材質・使用環境・その他の要因により変わってきます。詳しくは **Project EVEREST** 販売店にご相談下さい。

- ※ スピーカーシステムは耐久消費財です。温度、湿度、紫外線などの影響による経年変化でウーファーユニットの振動板、エッジ、センターキャップ等の色に変色する場合があります。
- ※ 本体には天然木突き板を採用しています。このため、製品の木目、色調、表面の質感などはスピーカー 1 本毎に異なりますことをご承知おきください。
- ※ また、DD67000 のバッフルにはクロス材を使用しているため、しわや織りむらが見られる場合がありますのでご了承願います。

故障と修理の手引き

Project EVEREST スピーカーは適切な操作でご使用いただいている限り、特別なメンテナンス無しに長期間故障なく使用して頂くことができます。

もし万一問題が生じた場合には、まず接続がすべて正しくなされているか確認して下さい。もし片方のスピーカーから問題が生じた場合、左右のスピーカーケーブルの接続を（スピーカー側の端子で）差し替えてみて下さ

Project EVEREST DD65000/67000

い。同じ現象がまた同じスピーカーから生じた場合は、スピーカーに問題があるということになります。もしこの現象が反対側のスピーカーに移った場合、原因は他のコンポーネントあるいはケーブルにあることとなります。このようなことが起こった場合は ***Project EVEREST*** ご購入店にご相談下さい。

Project EVEREST の登録

Project EVEREST スピーカーシステムをご購入頂いたことで、あなたは世界中の他のシステムでは得ることができない究極の音色を奏でるシステムを手にし、音楽愛好グループの一員となられたのです。

JBL は ***Project EVEREST*** ユーザーのアフターサービスを行うために購入者登録を行っています。登録を行うことにより本製品のユーザーに新製品、特別なプロモーションや技術の進展のニュースなどの情報をご連絡させていただきます。詳しくは、別紙「製品保証登録用紙」をご覧ください。

DD65000 仕様

使用ユニット LF/LLF : 380mm 径ファイバークォーツトコソウファー(1501AL-1)×2
 HF : 100mm 径マグネシウム・コソフ レッショント ライバ (476Mg)
 UHF : 25mm 径マグネシウム・コソフ レッショント ライバ (045Mg)

周波数特性(-6dB) : 31Hz~50kHz
 低域再生能力(-10dB) : 23Hz
 クロスオーバー周波数 : 150Hz (LLF LPF-6dB/oct)
 750Hz (LF LPF-24 dB/oct, HF HPF-12dB/oct)
 20kHz (UHF HPF-24dB/oct)

仕上げ : セブ ラウット (ダークセブ ラウット ハ ッフル/ク レグ リル)

DD67000 仕様

使用ユニット LF/LLF : 380mm 径 3 レイヤ サト イッチコソウファー(1501AL-2)×2
 HF : 100mm 径アルリウム・コソフ レッショント ライバ (476Be)
 UHF : 25mm 径アルリウム・コソフ レッショント ライバ (045Be-1)

周波数特性(-6dB) : 29Hz~60kHz
 低域再生能力(-10dB) : 21Hz
 クロスオーバー周波数 : 150Hz (LLF LPF-6dB/oct)
 850Hz (LF LPF-24dB/oct, HF HPF-12dB/oct)
 20kHz (UHF HPF-24dB/oct)

仕上げ : ローズ ウット (カーボ ソファイバークロスハ ッフル/ク レグ リル)
 メープ ル(カーボ ソファイバークロスハ ッフル/ライトク レグ リル)

DD65000/67000 共通仕様

許容入力(RMS) : 500W
 インピーダンス : 8Ω Nominal
 5.5Ω @ 85Hz
 3.5Ω @ 40kHz

能率(2.83 V@1m) : 96dB

ホーン指向特性 HF : 100° ×60°
 (水平×垂直) UHF : 60° ×30°

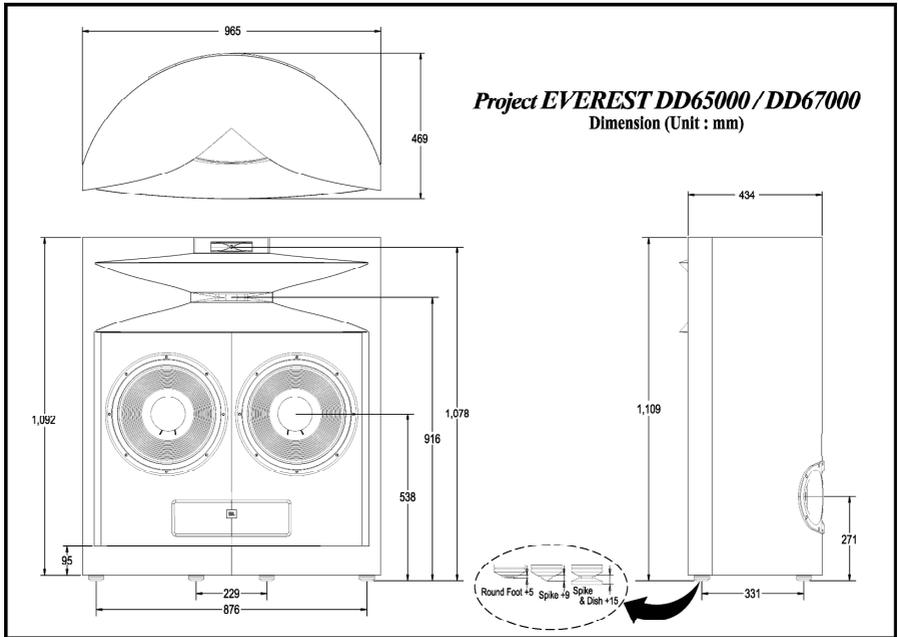
コントロール機能 : HF レベルコントロール(Low/Mid/High)
 LF レベルコントロール(Low/Mid/High)
 LF / HF ト ライブ モード 切り替え(Normal/Bi-Amp)
 システム・オリエンテーション切り替え(Left/Right)

外形寸法(W×H×D) : 965×1,109×469mm(足含む/スリット含む)

本体重量 : 137kg(ク リル含む)
 142kg(ク リル装着時)

梱包重量 : 174kg

Project EVEREST DD65000/67000



※本機は木材加工製品のため、各部の寸法には誤差が含まれます。

JBL

HARMAN

ハーマンインターナショナル 株式会社

ホームページ <http://www.harman-japan.co.jp>

製品に関するお問い合わせは、下記マーケティング部まで、
修理に関するお問い合わせは、東京サービスセンターまでご連絡ください。